

相談援助の理論と方法

問題 98 ソーシャルワークに影響を与えたシステム理論に関する次の説明のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ホメオスタシスとは、システムが恒常性を保とうとする働きである。
- 2 システムとは、複数の要素が無機的に関わり合っている集合体である。
- 3 開放システムの変容の最終状態は、初期条件によって一義的に決定される。
- 4 外部と情報やエネルギーの交換を行っているのは、閉鎖システムである。
- 5 サイバネティックスとは、システムが他の干渉を受けずに自己を変化させようとする仕組みである。

問題 99 岡村重夫が述べた社会福祉の一般的機能に関して、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 評価的機能は、援助者が、対象者の参加なしに対象者が抱える生活困難を評価するために発揮される。
- 2 調整的機能は、専門職間で生じている不調和の解決を図るために発揮される。
- 3 送致的機能は、援助者の所属機関が対象者の主訴に対処できないとき、適切な機関に対象者を紹介するために発揮される。
- 4 開発的機能は、個人の社会関係能力条件を開発するために発揮される。
- 5 保護的機能は、個人が必要とする保護を永続的に提供するために発揮される。

問題 100 事例を読んで、H児童福祉司(社会福祉士)の家族システムの視点に基づいた対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

父(43歳)と母(39歳)と暮らしているJ君(12歳)は、真夜中に繁華街^{はいかい}を徘徊していたところ警察に補導された。親と連絡がつかないため、W児童相談所に保護された。W児童相談所のH児童福祉司がJ君に家族について尋ねたところ、父母は仕事が多忙で、今日も母親から渡されたお金で夕食を食べるために繁華街に来ていたことがJ君から語られた。

- 1 J君の行動は父の無責任さによるものと考え、父への介入に焦点を当てる。
- 2 J君に、真夜中に繁華街を徘徊しないよう指導する。
- 3 J君に、父や母がJ君のことをどう思っているかを尋ねる。
- 4 J君に、一時的に親戚宅で生活するよう提案する。
- 5 J君の心情を考え、今以上にJ君に関わるよう、母親を指導する。

問題 101 ソーシャルワーク実践理論の基礎に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ランク(Rank, O.)の意志療法は、利用者の過去に着目し、利用者のパーソナリティの構造や自我の働きを捉える診断主義学派の礎となった。
- 2 ロス(Ross, M.)のコミュニティ・オーガニゼーション説は、地域における団体間調整の方法としてのインターグループワークを提唱した。
- 3 ホリス(Hollis, F.)の心理社会的アプローチは、診断主義学派と機能主義学派、両アプローチの折衷アプローチであり、両学派の統合を試みた。
- 4 タフト(Taft, J.)ら機能主義学派は、ソーシャルワーカーが所属する機関の機能に着目し、機関におけるソーシャルワーカーの役割を重視した。
- 5 パールマン(Perlman, H.)の問題解決アプローチは、精神分析や自我心理学の理論を否定し、人・状況・その双方の関連性においてケースワークを捉えた。

問題 102 事例を読んで、Kソーシャルワーカー(社会福祉士)の援助の初回面接における応答として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

X小児がん拠点病院のKソーシャルワーカーは医師からの依頼で、これからの治療や生活に対する支援実施のため、同院の血液腫瘍科で小児がんと告知された女兒(3歳)の両親と面談することになった。面接の冒頭、目を真っ赤にした母親は、「先生から娘の病気の説明は受けましたが、現実味がありません。ただ、なぜと繰り返し考えてしまいます。私たちの娘はなぜ3歳でがんになったのですか。できることなら私が代わってあげたい」と訴えた。

- 1 「今は混乱しているでしょうが、そのうち冷静に考えることができますよ」
- 2 「同じ経験をされている方はたくさんいます。その方々と会ってみませんか」
- 3 「ご心配が募る中でも娘さんの病気に向き合おうと努めておられるのですね」
- 4 「今は治療も進歩しているので大丈夫。安心して治療に専念しましょう」
- 5 「これからの治療や生活について、ご一緒に考えていきたいと思います」

問題 103 相談援助の過程に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 プランニングとは、人と環境の相互作用の枠組みで情報収集及び分析を行う段階である。
- 2 エバリュエーションとは、ソーシャルワーカーとクライアントが出会い、信頼関係を構築する段階である。
- 3 コーピングとは、実施されているサービスが適切に提供されているか事実確認を行う段階である。
- 4 インテークとは、支援の成果を評価し、その状況によっては終結へと進む段階である。
- 5 インターベンションとは、援助計画に沿って支援を実施していく段階である。

問題 104 シングル・システム・デザイン法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 適用対象として、個人よりも家族など小集団に対する支援が適切である。
- 2 ベースライン期とは、支援を実施している期間を指す。
- 3 クライエントを、実験群と統制群に分けて測定する。
- 4 測定対象のクライエントに対する支援効果を明らかにできる。
- 5 ABデザインを用いる場合、測定期間中に支援を一旦中止する必要がある。

問題 105 事例を読んで、エイズ治療拠点病院のL医療ソーシャルワーカーの、この段階における応答として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

3か月前にエイズ脳症でパートナーのMさんを看取ったAさん(50歳)が、L医療ソーシャルワーカーの下を訪れた。L医療ソーシャルワーカーは、「もう生きていけない」と悲しんでいたAさんを、Mさんの他界後も支援してきた。この日、面接室でAさんは、「Mが亡くなってからは毎日Mのことを思い出して泣き、しばらくは夢を見ているようでした。今も悲しい気持ちに変わりありませんが、最近現実を直視できるようになってきました。これからは、一人で暮らしていけると思いますが」と話した。

- 1 「よくMさんを支え続けていらっしゃいましたね」
- 2 「お一人で生活していけるというお気持ちは、きっと一時的なものですね」
- 3 「面接室でお目に掛かることもこの先ないかと思うとお別れが寂しいですね」
- 4 「今後のことで相談が必要となるようなことがありましたらご連絡ください」
- 5 「パートナーと死別した方のグループに入会しましょう」

問題 106 事例を読んで、**B** 社会福祉士が介入しようとしているシステムとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

P国から2年前に来日した**C**さんは、現在、難民認定を得て就労可能な在留資格を持って、Q市で暮らしている。日本語能力は十分ではないが、R市にある会社に就職している。しかし、自宅付近では孤独な暮らしで、近隣住民との会話ややりとりは全くない。**C**さんは、どうしたら近隣住民と交流を持てるのかと悩み、Q市社会福祉協議会の**B**社会福祉士に相談した。**B**社会福祉士は、**C**さんと同じような相談を複数回受けたことがあったため、実態把握の必要性を感じた。このため、Q市に居住している外国籍住民を対象とした聞き取りを行い、その結果を町内会に報告し、対応を促すこととした。

- 1 ミクロシステム
- 2 メゾシステム
- 3 クロノシステム
- 4 マクロシステム
- 5 エクソシステム

問題 107 ソーシャルワークにおける援助関係に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ラポールとは、被援助者に代わって援助者が意思決定することを表す。
- 2 パートナiershipとは、援助者と被援助者が共に課題に取り組む関係性を表す。
- 3 逆転移とは、被援助者が自己の感情を援助者に向けることを表す。
- 4 パターナリズムとは、援助者と被援助者間の情動的な絆きずなを表す。
- 5 アタッチメントとは、被援助者が援助者から自立している状態を表す。

問題 108 相談援助の面接技法に関する説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 言い換えによって、話す内容の選択をクライアントに対して求める。
- 2 共感によって、ソーシャルワーカーが問題に対する価値判断を明確に伝える。
- 3 ミラクル・クエスチョンによって、問題が解決した後の生活の様子や気持ちについて、クライアントの想像を促す。
- 4 アイメッセージによって、クライアントに対して客観的な情報を伝える。
- 5 閉じられた質問によって、クライアントに自由な語りを促す。

問題 109 カデューシン(Kadushin, A. & Kadushin, G.)が示した、「会話」と「ソーシャルワーク面接」の相違に関する記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「ソーシャルワーク面接」と比べて、「会話」には意図的な目的が存在している。
- 2 「ソーシャルワーク面接」と比べて、「会話」では参加者間に明確な役割分担がある。
- 3 「ソーシャルワーク面接」と比べて、「会話」の参加者はしばしば文化的に異質である。
- 4 「会話」と比べて、「ソーシャルワーク面接」には参加者間に平等な権威と力がある。
- 5 「会話」と比べて、「ソーシャルワーク面接」ではスピーチのパターンが構造化されている。

問題 110 ドメスティック・バイオレンスの被害女性を支援するNPO法人(Y法人)にDさん(35歳, 女性)が, 「何年も前から, 夫に殴られたり蹴られたりしていて, このままだとどうなるか分からないので, 助けてほしい」と, 保護を求めて来所した。このためY法人はDさんを保護するとともに, Y法人のE社会福祉士がDさんと面接することとなった。

次の記述のうち, この面接の導入部分におけるE社会福祉士の関わりとして, **適切なものを2つ**選びなさい。

- 1 なぜ, これまで助けを求めなかったのかを問う。
- 2 この面接の目的を伝える。
- 3 これから尋ねることに対して, 正確に回答するよう指示する。
- 4 支援を求めてY法人に来たことをねぎらい, 緊張を解く。
- 5 E社会福祉士がこれまで担当した事例から, 解決方法を伝える。

問題 111 ケースマネジメントの範囲や目的に関するモデルについての次の記述のうち, **正しいものを1つ**選びなさい。

- 1 クライアントのケアプランを作成し, サービス提供者へ送致するまでの中核的な機能に焦点化したものを最小限モデルという。
- 2 クライアントの暮らす地域のケアシステムを変革するために, ネットワーク推進, システム改変, 計画化(施策提言)を含めるものを包括的モデルという。
- 3 クライアントが利用する資源開発に向けての弁護機能, サービスの品質の監視, 市民教育を含めるものをコーディネーションモデルという。
- 4 クライアント本人を尊重し, 利用者の利益を向上させるというソーシャルワークの価値, 倫理を基盤にするものをシステム指向モデルという。
- 5 クライアントに対して, 効果的で効率的なサービスの調整を目指すものを利用者指向モデルという。

問題 112 S市社会福祉協議会は、S市から避難行動要支援者への支援の役割調整等のコーディネートを委託されている。

次の記述のうち、コーディネーターであるS市社会福祉協議会のF社会福祉士が平常時から行う行動として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 避難行動要支援者を個別に訪問し、避難支援を行うに当たっての留意点を聞き取る。
- 2 内閣府が策定する、避難支援のための個別計画を地域の支援者と共有する。
- 3 地域住民に声を掛け、避難訓練を避難行動要支援者と一緒に行う。
- 4 災害発生に備えて、避難行動要支援者名簿を地域の全戸に配布する。
- 5 避難行動要支援者に対して、住民の中から住民基本台帳によって支援者の役割を割り当てる。

問題 113 事例を読んで、地域包括支援センターのG社会福祉士が、現段階で行う関係者の連携による会議として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

近隣住民から、Hさん(82歳、女性)宅から異臭がするとの相談を受けたJ民生委員が、その地域を担当する地域包括支援センターのG社会福祉士に、訪問への同行を依頼した。Hさん宅を訪問し話を聞く中で、ゴミ収集の曜日や分別の方法の理解が難しくなっている状況が分かってきた。他にも同様のケースの存在を意識したG社会福祉士は、Hさん個人への支援と、地域でHさんと同じような困難を持つ高齢者を支えるために会議を開催することにした。

- 1 住宅確保が難しい人の、民間賃貸住宅への入居を進める住宅確保要配慮者居住支援協議会
- 2 高齢者虐待対応のための個別ケース会議
- 3 高齢者のニーズ調査を企画する、介護保険法に基づくサービス担当者会議
- 4 地域包括支援センターと関係者で協議する地域ケア会議
- 5 介護支援専門員の資質向上を目指す地域包括支援センターの事例検討会

問題 114 次のうち、グループワークにおいて、グループワーカーが活用する援助媒体として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 メンバー間に形成されるソーシャルワーク関係
- 2 メンバーとグループワーカーの間に形成される相互援助関係
- 3 現在のグループの発達段階では達成が難しい、高い目標設定をしたプログラム
- 4 グループワーカーが運営する別のグループの集団規範
- 5 援助目標達成に関わる人、物、社会制度等の社会資源

問題 115 セルフヘルプグループに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 セルフヘルプグループのメンバーは、特定の体験を共有し、蓄積し吟味することによって生み出される体験的知識を活用し、問題に対処する。
- 2 セルフヘルプグループは、既に組織的に活動しているグループを基に形成される。
- 3 セルフヘルプグループは、多様な専門性を持つ専門職による、多職種連携の一形態である。
- 4 セルフヘルプグループでは、メンバー間の上下関係を活用する。
- 5 セルフヘルプグループへの入退会は、グループ運営を円滑に行うために、ソーシャルワーカーがその可否を決定する。

問題 116 グループスーパービジョンに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 スーパーバイザーがスーパーバイジの個々人の資質や能力を比較し評価することを目的とする。
- 2 スーパーバイザーとスーパーバイジ間の信頼関係を、個人スーパービジョンよりも短時間のうちに構築できる。
- 3 スーパーバイジ同士の議論や検討により、学習効果の高まりを期待することができる。
- 4 スーパーバイジ個人が抱える課題を、複数のスーパーバイザー間で共有することで、より適切な支援が行われる。
- 5 個々のスーパーバイジが担当する事例ではなく、一般的な模擬事例を検討に用いる。

問題 117 ソーシャルワークの記録に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 プランニングシートには、利用者がサービスを利用してどのような生活をしたのかについて記述する。
- 2 時間の経過に沿ってソーシャルワーク過程において起こる事実を記録する形式を説明体という。
- 3 逐語録では、話し言葉の記録にソーシャルワーカーの説明や解釈を加えて記述する。
- 4 的確に情報を伝達することを求められるため、文字情報で統一する。
- 5 グループインタビューの記録係は、参加者の非言語的反応を含めて記録する。

問題 118 T市役所で地域福祉計画を担当する職員であるK社会福祉士は、次期の地域福祉計画の策定に向けて、2017年(平成29年)に改正された社会福祉法の内容を踏まえ、策定の準備に取り組むこととなった。

次のうち、K社会福祉士が取り組む内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 現行の計画を評価するために評価委員会を立ち上げ、数量化できる、定量的な事項に限定して客観的に評価を行う。
- 2 地域住民、福祉・保健・医療関係者、市役所内で計画に係る複数の部局の職員等が参加する地域福祉計画策定委員会を組織する。
- 3 地域福祉計画に地域住民の意見を反映させるために、各地区の公民館等を会場として地域住民が主体的に参加する懇談会を開催する。
- 4 計画に対する地域住民の意見は、前回の計画の策定時におけるアンケート調査結果のデータを基にして計画の策定を進める。
- 5 計画の策定には専門的な知識と技術が必要になるため、市内の社会福祉法人に策定の作業を委託することを検討する。